

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19202022

研究課題名（和文） 公共文化の胎動：建国後の合衆国における植民地社会諸規範の継承と断絶に関する研究

研究課題名（英文） The Rise of Public Culture: Transformation of Social Norms during the 18th- and early 19th- century America.

研究代表者

遠藤 泰生（ENDO YASUO）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：50194048

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、西洋史

キーワード：公共文化、人種、共和主義、キリスト教、独立革命、市場革命、アンティベラム

1. 研究計画の概要

- (1) 18 世紀植民地時代から独立革命を経て 19 世紀アンティベラム時代へと続く合衆国史を、一つの包括的視点から捉え、独立革命で分断される歴史像を修正する。
- (2) 公共文化の醸成という視点から、合衆国史を、ヨーロッパ史、アジア史との比較史的視野から相対化する。

2. 研究の進捗状況

- (1) プロジェクト発足時にたてた政治、宗教、人種、ジェンダー、経済、公共規範の越境という各視点からの分析は進んでいる。基本的には研究分担者が公文書館等での資料調査等に基づく研究課題の検討を続け、それと平行する形で、国内外からの招聘した研究者との討議を重ねている。
- (2) 以前は大きく取り上げられることが少なかった宗教規範の 1. (1) にあげた二つの時代をまたぐ連続性が新たな課題として浮上してきた。この点に関しては、米国のロバート・ベラやマーク・ノル、古くは 19 世紀のトックヴィルまでが合衆国社会を通底する道徳の力にも似た宗教の力を指摘してきたが、その宗教規範が他の分野、とくにジェンダーや経済の分野とどのような連関も持つのか、また、伝道という形を借りた宗教規範の越境現象の分析が今後の魅力ある課題として浮上している。
- (3) 18 世紀イギリス帝国が支配した大西洋世界を文脈に、現在多様な公共文化研究が西洋史学会全体で展開されていることをフォローしてきた。その中で、ヨーロッパの政治文化における「公共」の概念

がどれだけアメリカ植民地社会、および建国後のアメリカ社会の分析概念として有効性を有するかは、議論の余地があることが明らかとなっている。

- (4) 内外の研究者との知見の交流は順調に進んでいる。アメリカ歴史学会会長を務めるローレル・ウルリックや 19 世紀史の新たな分野を切り開くアラン・テイラーらとの交流は若い研究者の間に 1. (1) の歴史観への強い関心を惹起し、また、南山大学や同志社大学の宗教文化研究者との交流は、政治学、文学を専門とする研究者に新たな研究関心を植え付けることに成功している。日本アメリカ学会初期アメリカ分科会を 09 年度、10 年度と続けて実質本科研プロジェクトが主催する形になったことに示されるとおり、日本の学会への本研究が掲げる問題関心の普及と、成果の発信が進んでいる。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進んでいる。

上記 2. に記したように、この後検討すべき問題が明瞭に把握されている。その検討に必要な資料の購入、海外渡航調査も数次にわたって行われた。定期研究会も会を重ねており、最終年次の総合討議を待つ状況である。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 定例の研究科をひき続き開催し、分担者間の意見の交換を深めると同時に、10 年度は合衆国から 3 名の研究者を招聘し、現在前に得られた知見の統合とその成果の刊行準備を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 40 件)

橋川建竜「19 世紀前半のアメリカ合衆国における農村型事業の変質 ニュージャージー州南部の製鉄所における労働管理」『千葉史学』(査読有) 55 巻、2009、13-28.

〔学会発表〕(計 30 件)

Masui Shitsuyo, “Rethinking Puritanism in Transatlantic Context,” The 44th ASAK International Conference “The Futures of America,” October 28, 2009, Seoul.

Matsubara Hiroyuki, “Sometime Allies, Sometime Competitors: Men and Women in the Commission on Training Camp Activities, 1917 -1919,” American Historical Association, 121st Annual Meeting, 2007, January 5, Washington D.C.

〔図書〕(計 16 件)

遠藤泰生、日本放送大学教育振興会、『アメリカの歴史と文化』、2008、3-30、64-79、94-110、156-171、236-251.

平井康大、ミネルヴァ書房、「心の習慣を求めて：プロミス・キーパーズがしめす男性像」 久保文明・有賀夏記編『シリーズアメリカ研究の越境 個人と国家のあいだ<家族・団体・運動>』、2007、pp. 225 -245.

〔その他〕

東京大学アメリカ太平洋地域研究センター Newsletter に随時活動報告を掲載している。
<http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html>